

1. 実況上の着目点

- ① 北海道地方付近には低気圧があつて北北東進。この低気圧から前線が日本の東～日本の南を通り、南西諸島付近にのびている。先島諸島の近海では、1時間80ミリ程度の雨量を解析。雷を多数検知。
- ② ①の低気圧の影響により、北海道地方では、1時間5ミリ程度の雨量を解析。
- ③ 日本のはるか東に中心を持つ高気圧と①の低気圧や前線との間で、気圧の傾きが大きくなっており、北日本ではやや強い風が吹いて、波が高くなっている所がある。
- ④ 衛星画像(ダスト画像)で、日本海に黄砂の飛来が確認できる。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 華中～南西諸島～日本の南を通り、日本の東にのびる前線上の東シナ海には、26日朝までに低気圧が発生する。この低気圧は27日にかけて東シナ海を東進し、奄美付近を通過後、日本の南で前線上のキンクとなる。この低気圧や前線に向かって850hPa θ_e 336K以上の下層暖湿気が華南付近からと東シナ海から流入するため、南西諸島では27日にかけて大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島では27日にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項①の低気圧は、26日朝まで閉塞した前線を伴いながら千島近海を北北東進する。また、26日はアムール川下流の低気圧が北東進しオホーツク海まで進む。これらの低気圧や前線と日本のはるか東に中心を持つ高気圧との間で気圧の傾きが大きい状態が続くため、北日本では強い風が吹いて、波が高くなる所がある。北日本では26日は、強風や高波に注意。
- ③ 26日夜には、2項①の前線上の日本の南にキンクが発生し東北東進。27日朝までには低気圧となり伊豆諸島付近を通過する。低気圧や前線の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。伊豆諸島では27日は、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。
- ④ 日本のはるか東に中心を持つ高気圧の縁辺をまわる暖かい空気の影響により、北～東日本では27日にかけて850hPaの気温が平年と比べて10°C程度高い状態が続く。積雪の多い地域では、融雪やなだれに注意。
- ⑤ 東日本では26日は、北日本では27日にかけて、1項④の黄砂が広い範囲で飛来が予想されている。視程が10km未満、所によって5km未満となる見込み。視程の悪化による交通障害に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧や前線の位置について、モデル間の予想の差が大きく不確実性が高い。今後の予想に留意。

4. 防災関連事項【量的予報と根拠】 ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：沖縄100mm。②波浪(明日まで)：北海道3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定はない。